

なごみの里だより

棚田・里山の景観とくらし

昨年、田植の頃（5月）や、低温、夏の酷暑（8月）その後の集中豪雨と大荒れの気象でした。当坂折棚田においても8月下旬の集中豪雨によって棚田石積みが数カ所で崩壊したり、田に土砂が流入したりしました。自然の驚異を思い知ったところです。

当坂折棚田は、水田（棚田）のある周辺に住居があり、住居の周辺は里山になっています。

この里山は、かつては（50年～60年前）落葉樹が占めており、木々は柴状態で、春先に刈り取って肥料として田に入れていました。また田に太陽の光が良く入るようになるため大木はありませんでした。したがって棚田の景色は今より明るく広々とした感じのするところでした。この半世紀の間にその模様は大きく変化し、棚田の周辺は常緑樹（杉、桧）が植林され、その景色は暗い感じがするようになってきました。

このような変化は生活様式変化と深く関係すると思われま

す。直接的には棚田での農業の変化（稲作栽培）に関係しております。肥料が潤沢にあることや機械化栽培がなされるようになったことによ



phot by 青木 孝義

って柴の必要がなくなったこと、植林が国策として実施されたこと、さらに収入源が農業以外からでないことと生活できなくなったことなど社会情勢の変化にともなう景色の移り替わりであります。

この棚田の風景は、時代とともに変化していますが、なるべく昔のままに保全し、後世に伝えるようにしなければなりません。

いわゆる、自然環境を守ることであります。先般、藤原正彦氏（数学者で『国家の品格』の著者）の講演の中で、21世紀は自然を守り続けなければならない。農村、農業、農家がつぶれたら、美的感受性がなくなってしまう、また日本の四季の美しさは木々の種類の多いことであり、落葉樹の芽吹き、そして落葉がはかない美しさであり、自然に膝まづく心や、懐かしさの心、故郷を愛すること、さらに家族愛、祖国愛、郷土愛など、また戦争の抑止力につながるということや、惻隱の心（いたわしく思うこと、思いやり）が必要との話がありました。

棚田の保全は、多くの皆様の惻隱の心が必要です。先代が汗を流して、コツコツと積み上げた石積みの美しい棚田を守り、次世代に伝えることを理解して欲しいのです。

棚田の保全活動について会員の皆様の相変わらずのご支援をお願い申し上げます。

第16回全国棚田(千枚田)サミットに参加して

全国棚田(千枚田)サミットは、当恵那市で開催されたのが第9回(平成15年)であった。それから7年を経過、昨年静岡県松崎町石部の棚田(西伊豆)で開催された。私達の保存会からも会員20名が参加しました。

サミットの開会挨拶で川勝静岡県知事基調講演があり、その内容は「県の棚田等10選の中でも、日本一高い富士山と日本一深い駿河湾、そして日本を代表する南アルプスを同時に眺められる石部の棚田・赤根田の棚田は、富士の国静岡が全国に、世界に誇り得る財産であり宝だ」でした。私達の宝である坂折棚田も、全国に誇れる棚田にしたいと思います。



田の神・灯まつり、棚田コンサート



6月27日、折しも雨の降る中で田の神祭りと棚田コンサートが行われた。第2回目の灯まつりで、大井町から寄付を受けたロウソクで灯りをともしました。梅雨の時期で、小雨の中をボランティアの手によって点火、棚田の厳荘的な情景が浮かび上がりました。

Phot by 保母 哲

第5回石積み塾 塾生32名で開催

11月27日～28日第5回石積み塾を実施

今回は32名の参加者のうち女性8名で、石積みの技法を習得しようと真剣に取り組む姿が印象的であった。

尚、5回を通して受講された方には、野面積み技工士（仮称）が認定されます。



トピックス

☆東京棚田フェスティバルに参加！

11月12日、13日と東京棚田フェスティバルに参加しました。東京でもおしゃれな街表参道の国連大学中庭でおこなわれました。おかげ様で、坂折棚田から持って行った「棚田もち」「ほうば寿司」は完売しました。他の棚田の方々との交流会もあり、有意義な2日間となりました。13日には、表では、日本版マルシェ(市場)ファーマーズマーケットも開かれ、まるでヨーロッパの街角の市場の雰囲気でした。



☆初開催の「えなまちなか市」に出店！



12月4日、初めて開催された「えなまちなか市」の軽トラ市に出店しました。持っていった野菜類は完売しました。

☆さかおり棚田米の人気上昇中！

「さかおり棚田米」の品種はコシヒカリとミネアサヒです。「ミネアサヒ」は愛知県三河山間部で栽培されており、味の良いことで有名です。当坂折棚田やその周辺で昔から栽培されていました。昨年秋に地域奨励品種として認定されました。最近安全で美味しいお米の需要が増えており、「さかおり棚田米」の人气が高まってきました。今後は棚田応援米として大いに宣伝していきます。



■棚田保存活動への寄付者（順不同）■

山田 和美・堀 誠・西尾 耕示・鈴木 直・柘植 功・柘植 一光・飯田 まち子・柘植 剛

熊崎 満・加藤 和子・河合 哲玄・田口 譲・柘植 俊夫・清藤奈津子・寺田 千佳子・西尾 玲子

～2010年の棚田オーナー制度のアルバム～

稲づくりオーナー：第5回目参加41組約150人

*田植え 今回は初めての試みとして2回に分けて作業を実施

5月15日・5月22日



*草取り 6月12日・6月19日



*稲刈り 9月25日、快晴に恵まれて実施。稲刈り作業は、全員1日で終了。



*収穫祭（かりかぶ祭り） 10月2日あいにく台風14号通過のため中野方コミュニティセンター駐車場で実施。第4回フォトコンテスト入賞者の表彰式も行われました。



里芋オーナーと枝豆オーナー：今回の参加者は少なかったのですが、今後も実施予定です。

あとがき 棚田通信の発行が遅くなりました。昨年の酷暑によって当保存会も影響があり、棚田米の生産は平年並みになったものの、カメムシ（斑点米）の発生が多く、品質をおとしました。今回は活動の状況を写真でお知らせすることになりました。次号からは、定期（季節ごと）に発行してまいります。皆様方の投稿をお待ちしています。

NPO法人恵那市坂折棚田保存会 電話：0573-23-2032 * FAX：0573-23-2046 * 携帯：080-1553-0315

E-mail：sakaori-tanada@ia1.itkeeper.ne.jp ホームページ：http://sakaori-tanada.com